

## 厚い壁を角度を少しずつ変えて穴をあけるように

### 「心を聴く」ケアへの扉

日本高齢者生活協同組合連合会 本間紀子

今までのご活動の原点として、

- ・新潟県三条市の地域での若いころの高齢者とのかかわりの様子
- ・ご自身のおじいさまのこと
- ・おじいさまを介護していらしたお母様のこと
- ・幼かったご自身が介護の一端を自分の立場ゆえに担っているという認識をあげていらしたことがとても印象的でした。

子供のときに感じたことが、現場での疑問、そして当事者の心を聴く現在の活動にしっかりとつながっていらっしゃることを感じました。

「効率とは何か？」

センター方式についての現場の職員の反応の部分で話された「効率」という言葉についても考えさせられました。

当事者本人の声に導かれることが、介護現場の職員の士気、職員の定着率にも大きく影響していくということを多くの現場で実感していく必要があるのだと感じます。

「急がば回れ」であるということが実は腑に落ちる。そのような経験を重ねたケアワーカーを一人でも増やすために、新たにまっすぐにその質に向かっていけるケアワーカーが育つ場のためにも、永田先生の活動やご経験をより多くの方に聴いていただきたいと強く感じました。

まるで、厚い壁を角度を少しずつ変えて穴をあけるように、時には固い氷を少しずつ溶かすように、一步一步地道にコツコツと活動を続けながら、認知症当事者の方の気持ちを大切に丁寧に世の中に届ける道を開かれた永田先生の生き方に敬意を表します。

だれもがなり得る認知症当事者、その「心を聴く」ケアへの扉を開いてくださった永田先生に深謝し、当事者の心に耳を傾けることの大切さを一人でも多くの方が感じられるように、非力ながら活動を支援させていただけたらと思っています。

ありがとうございました。